

●冬

○48

對聖誕樹(H19/12/22作)

(仄起式 押韻は、下平声五「歌」である。)

日比谷公園開催される東京ファンタジアの点灯式を見、クリスマスに
思いを馳せつつ過ぎんとする丁亥の年を省みて、来る戊子が良い年であ
ることを願いました。このままでは国家衰退の道を歩き始めているよう
な気がします。杞憂であれば幸いです：

寒氣深深凍銀河
万燈浮闇嘆聲波
亥年滿偽國衰退
聖夜靜瞑願幸多

○32

大寒波襲来(H18/1/16作)

(仄起式、押韻は、平声十「灰」である。)

何十年振りかの大寒波の襲来に日本列島が凍えています。弘沢の滝も
十年ぶりに完全結氷しておりました。日本海側では陸上自衛隊が災害派
遣致しました。独居宅の雪下ろしや孤立した集落の道路啓開に尽力し、
多大なる感謝が捧げられました。

寒氣覆邦氷雪堆
隔村壞屋是何災
隊員除塞独翁謝
民倦切希春早来

○18

孫来遊於冬十勝(H15/12/31)

(平起式、押韻は、下平声六「麻」である。)

年末に小一の孫が単身飛行機に搭乗して遊びに来ました。小さいくせ
に温泉大好き、又そり遊びに興じました。一緒に遊んで幸せをかみ締
め、且つ将来に幸多かれと祈らずには折れませんでした。

愛孫来帶眼生花
橇滑浴湯笑貌加
連日遊敖俱喜躍
予希百福富才華

○15

初冬(H15/11/8作)

(平起式 韻は、平声二「冬」である。)

帯広のグリーンパークに一面に霜が下り、蝦夷リスが貯食に多忙を極め、松に露がかかっており、十勝平野は初冬に入っている。

緑園白変万霜濃
零露徐濡冷碧松
栗鼠往来忙貯食
寒波南下入初冬

○4

豪雪(H15/1/15作)

(仄起式 押韻は、下平声一「先」である。)

3と同様の風景を詠んだら全く違ったものになりました。

夢醒窓前眺望鮮
四困皆白眼前連
庭隈屈身独抛塊
停手仰看雪後天

○3

豪雪朝(H15/1/5作)

(仄起式 押韻は、下平声七「陽」である。)

一月三日の宴会でしたたかに酔った翌朝、数十センチの豪雪でした。路駐の車の風景と官舎の庭の除雪の様子を読みました。韻と平仄に四苦八苦しみました。

酒醒窓前尺積光
路車雪覆似膨羊
庭隈排雪顔容汗
頭上陽光徐燦煌

○1

滑白銀 (三十四/二/二九作)

(仄起式 押韻は、下平声九「青」である。)

サホロスキー場に一年ぶり、今シーズンの初滑りに行った際の感動を詠みました。

大雪日高 囲十勝
秀峰眺望 広宏野
巖冬天上 甚澄青
壳瞬滑空 汗迸雫